

歴文・例研 研修会 資料 (29 年 3 月)

1、行程 (約 8 km)

《出発 10:00》

飛鳥駅 (徒歩) → 牽牛子塚古墳 (徒歩) → 飛鳥駅 (バス) → 石舞台古墳 (徒歩) → 都塚古墳 (徒歩) → 昼食 → 犬養万葉記念館 (山吹歌碑) (徒歩) → 万葉記念館 (大口歌碑) (徒歩) → 小原 (徒歩) → 鎌足生誕の地 (天武と藤原夫人の歌碑 (徒歩)) → 大伴夫人の墓 (徒歩) → 万葉記念館前 (バス) → 飛鳥駅

《飛鳥駅帰着 16:00》

2、資料

① けんごしづかこふん 牽牛子塚古墳



牽牛子は「あさがお」の別称であり、大正 12 年に国の史跡指定時にはあさがお塚古墳の読みが付されていた。

7 世紀後半の終末期古墳で墳丘の対辺 3.2 m の円墳とされていたが、平成 21 年からの発掘調査で八角形墳であることが判明し、第 37 代斉明天皇陵の可能性が高まった。飛鳥時代は古墳の終末期に当たり、前方後円墳に代わり方墳や八角形墳が作られたが、天皇の墓は八角形墳である。

日本書紀には天智称制 6 年 (667) の陰暦 2 月 27 日、斉明天皇と間人皇女を小市岡上陵に合葬し、同日大田皇女を陵の前の墓に葬ったとある。牽牛子塚古墳の位置する土地は真弓丘と呼ばれており、墳丘の構造は南に横穴が開く横口式石槨である。石槨内は二つに仕切られており 2 体を葬ったものと見られる。書紀に記載する大田皇女を前陵に葬ったとの記述と一致しなかったが、平成 22 年に古墳のすぐ南に未知の古墳が発見され越塚御門古墳と名付けられた。こうして益々斉明陵の可能性が高まったわけであるが、書紀に記載する小市岡と真弓岡とを間違えたとは断じるには少し無理があるように思われる。

宮内庁が指定する斉明陵はJR掖上駅近くの高取町車木にあり、越智崗上（小市崗上）^{おちおちのえ} 陵^{みさぎ}と称している。

②越塚御門古墳^{こしづかごもんこふん}

平成21年からの牽牛子塚古墳調査時に隣接する南側から偶然発見された未知の古墳で築造時期もほぼ同じころから牽牛子塚古墳の前塚とする説が有力である。書紀の記述によれば斉明陵の前に大田皇女を葬ったとあり大田皇女の墓説が浮上している。

③都塚古墳^{みやこづかこふん}



石舞台古墳の南東400mに位置し、別称金鳥塚古墳と言い6世紀後半の築造と推定される方墳で、一辺が41mある。墳丘表面では階段状に積み石がなされ日本には類例のない階段ピラミッド形状である。（5世紀の高句麗や百済に階段状積石塚古墳が見られる）被葬者は石舞台古墳よりやや遡ることから馬子の父蘇我稻目とする説が有力である。埋葬施設は横穴式石室で南西に開口し、石室長は約12mあり石室内には家形石棺が据えられている。盗掘にあつて副葬品はほとんど散逸しているが、土師器、須恵器や鉄製品が出土している。

④犬養万葉記念館



万葉学者にして明日香村名誉村民の故犬養孝先生の記念館。旧南都銀行の建物の寄贈を受け開設された。犬養先生の生立ち、業績、万葉旅行の紹介、犬養節による万葉の解説が見学できる。入口付近に武市皇子の山吹の歌碑がある。入場料は無料で明日香村のコミュニティセンターになっている。

とうちのひめみこ ^{かほしが} 高市皇子の作りませる歌 高市皇子 卷2-158

山吹の 立ちよそひたる 山清水 汲みに行かめど 道の知らなく

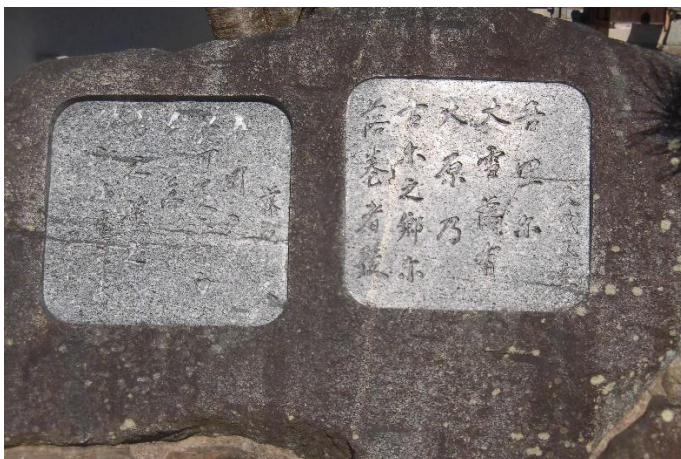
とねりのおとめ 舎人娘子 卷8-1636

大口の 真神の原に 降る雪は いたくな降りそ 家もあらなくに

⑤藤原鎌足生誕地



中大兄と共に乙巳の変を決行した中臣鎌足の生誕地。明日香村の小原（大原とも書く）にあり、裏に鎌足産湯の井戸もある。鎌足の臨終に際し天智天皇より臣下の最高位「大職冠」と藤原の姓を授けられ藤原氏の祖となった。壬申の乱の後、都が大津から明日香浄御原に移ったが、天武天皇の夫人（鎌足の娘、通称藤原夫人）が住んだ。天武と藤原夫人とのかけあいの万葉歌がユーモラスで楽しい。



わが里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 降らまくは後

天武天皇 卷2-103

わが岡の おかみにいひて 降らしめし 雪のくだけし そこに散りけむ

藤原夫人 卷2-104

橘寺にて

たちばな 橘の 寺の長屋に わが率寝し うないはなり 童女放髪は 髪上げつらむか

作者不詳 卷16-3822

小山田古墳の新聞記事

(29年3月2日)

飛鳥最大級の方墳か

小山田古墳 1辺70メートル規模

飛鳥時代の巨大な石張りの掘割(濠)が出土した奈良県明日香村の小山田遺跡で、石の抜き取り穴や排水溝など古墳の横穴式石室の痕跡とみられる遺構がみつかった。県立橿原考古学研究所(橿考研)が1日発表。遺跡が7世紀中ごろに築造された未知の古墳だったことが確定し、「小山田古墳」と命名された。

▼3面||舒明天皇か蘇我蝦夷か

一辺約70メートルの飛鳥時代で最大級の方形の古墳の可能性が高まった。これほど巨大な未知の古墳の発見は異

飛鳥地域の古墳の変遷

前方後円墳		丸山古墳 (全長約330メートル)	有力な被葬者 欽明天皇か 蘇我稲目
		平田梅山古墳 (全長約138メートル)	宮内庁が欽明天皇陵に指定
方墳		石舞台古墳 (一辺50メートル)	蘇我馬子
		小山田古墳 (一辺70メートル)	舒明天皇(初葬)か蘇我蝦夷
八角形墳		野口王墓古墳 (対辺長38メートル)	天武天皇と持統天皇
		段ノ塚古墳 (対辺長42メートル)	舒明天皇(改葬後)



例。被葬者像をめぐる、7世紀前半に即位した舒明天皇(593〜641)か、乙巳の変(大化改新の発端、645年)で滅ぼされた豪族の蘇我蝦夷(？〜645)との見方が出ている。2014年に県立明日香養護学校の校舎建て替えに伴う発掘調査で、多数の

石板が張りこめられた掘割が出土。古墳の濠や居館、庭園などの見立てがあった。

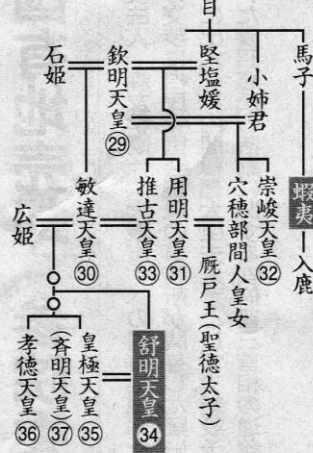
今回、掘割の約65メートル南を発掘調査。横穴式石室の通路(羨道)の左右の側壁を構成するとみられる石が抜き取られた痕跡(南北長1メートル以上、東西幅約1.5メートル)が出土した。通路幅とされる抜き取り穴間の距離は約2.6メートルに及び、厩戸王(聖徳太子)と共同で政治を執った蝦夷の父、馬子の墓とされる石舞台古墳(奈良県明日香村、7世紀前半)の通路より広い。

墳丘の一部とされる盛り土も確認。墳丘の南側は広がる可能性が強まり、石舞台(一辺約50メートル)を上回る規模を誇ったとみられる。橿考研の菅谷文則所長は「墳丘規模や築造時期などからも、舒明天皇が最初に葬られた場所である可能性が高まった」と話す。現地はすでに埋め戻され、見学はできない。(田中祐也)

奈良・明日香の小山田古墳

舒明天皇の初葬地か 蘇我蝦夷の大陵か

天皇家と蘇我氏の関係
数字は代数



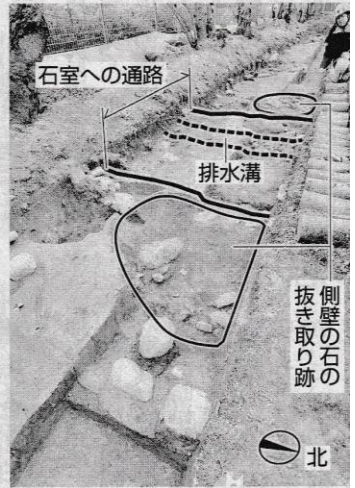
飛鳥時代に最大級の方形古墳(方墳)の可能性が高まった奈良県明日香村の小山田古墳。そこに眠っていたのは、新しい国づくりを目指した舒明天皇(593〜641)だったのか。天皇をしのぐ権勢を誇ったとされる豪族の蘇我蝦夷だったのか。なぜ、古墳は短時間で壊されたのか。古代史の謎が深まってきた。

▼1面参照

近畿の天皇や豪族の墓の形は、飛鳥時代を通じて変化する。3世紀中ごろの古墳時代初めから続いた前方後円墳は6世紀末に終わりを告げ、方墳に。7世紀中ごろからは天皇墓に八角形墳が採用される。その八角形墳の始まりが最古の国家寺院、百済大寺を建て、遣唐使を初めて派遣した舒明

天皇の陵墓とされる段ノ塚古墳(奈良県桜井市)だ。舒明天皇は、7世紀前半に厩戸王(聖徳太子)や蘇我馬子と政治を進めた推古天皇の死後に即位。蘇我氏が権力を握るなか、飛鳥の中心から離れた地に百済宮や百済大寺を築く。蘇我氏とは距離を置き、天皇中心の中央集権国家づくりを指したとの見方もある。

小山田古墳でみつかった石室への通路とみられる痕跡



南北60メートル、推古天皇陵とされる山田高塚古墳(東西66メートル、南北58メートル)だが、一辺70メートルの小山田古墳の規模はこれらを上回る。木下正史・東京学芸大学名誉教授(考古学)は「これだけの規模は天皇の墓としか考え

皇の墓との見方を示す。「日本書紀」は、舒明天皇の遺体は642年12月に「滑谷岡」に葬られ、その9カ月後に「押坂陵」に改葬されたと記す。

小山田古墳は、掘割の斜面に緑色の結晶片岩(緑泥片岩)と「榛原石」と呼ばれる板石が階段状に積み上げられた異例の構造だった。調査を担う奈良県立橿原考古学研究所の菅谷文則所長は、その構造が段ノ塚古墳で確認された石積みと似ると指摘。舒明天皇が最初に葬られた「初葬地」の可能性を指摘する。

「小陵」を入鹿の墓にしたと伝える。だが、親子は舒明天皇没後の645年、乙巳の変(大化改新の発端)で舒明天皇の息子、中大兄皇子(後の天智天皇)らに滅ぼされ、時代は天皇を中心とする中央集権国家づくりへと転換する。

白石太一郎・大阪府立近つ飛鳥博物館長(考古学)は、この「大陵」を小山田古墳と考える。「大化改新で蘇我氏が滅んだ後、古墳は意図的に壊された」とすれば説明がつく。猪熊兼勝・京都橋大名誉教授(考古学)も小山田古墳を「大陵」、隣接する葛蒲池古墳(奈良県橿原市)を「小陵」とみる。「天皇陵なら取り壊す必要はない。推古天皇が初めに葬られたとみられる植山古墳(奈良県橿原市)には石室が残り、天皇陵が改葬後も石室を残す事例では」と説明する。

近畿で最大級の方墳は聖徳太子の父、用明天皇の陵墓とされる大阪府太子町の春日山古墳(東西66メートル、南北60メートル)や、推古天皇陵とされる山田高塚古墳(東西66メートル、南北58メートル)だが、一辺70メートルの小山田古墳の規模はこれらを上回る。木下正史・東京学芸大学名誉教授(考古学)は「これだけの規模は天皇の墓としか考え

短期間で壊されたか

一方、新たな謎も浮上した。小山田古墳は、7世紀後半のわずかな期間内に埋められた可能性の強いこと

が明らかになった。「日本書紀」は、蘇我蝦夷と入鹿の親子が権力を誇り、生前に「双墓」をつくら

- 飛鳥時代の主なできごと
- 592年 推古天皇が即位
 - 604年 憲法十七条制定
 - 607年 小野妹子を隋に派遣(遣隋使)
 - 618年 隋が滅び、唐が興る
 - 626年 蘇我馬子没す。石舞台古墳に埋葬か
 - 629年 舒明天皇が即位
 - 630年 第1回遣唐使を派遣
 - 639年 舒明天皇、百済宮と百済大寺の造営を始める
 - 641年 舒明天皇没す
 - 642年 皇極天皇が即位。舒明天皇を「滑谷岡」に葬る。蘇我蝦夷と、息子の入鹿が「双墓」(大陵、小陵)をつくる
 - 643年 舒明天皇の墓を「押坂陵」に改葬
 - 645年 乙巳の変。中大兄皇子ら、蝦夷・入鹿を滅ぼす
 - 663年 白村江の戦い。倭軍、唐・新羅連合軍に敗北
 - 672年 壬申の乱
 - 673年 天武天皇、飛鳥浄御原宮で即位
 - 694年 藤原京遷都
 - 701年 大宝律令完成
 - 710年 平城京遷都

塚口義信・堺女子短大名誉学長(古代史)は「蝦夷の墓ならば、古墳が小規模化する時代に逆行しても巨大古墳をつくれるほど蘇我氏が大きな権力を持ったことを示す。大化改新直前の政治権力の構造を考えるきっかけになる」と話す。

(渡義人、田中祐也)